

Ⅲ 予防の効果（または悪化の内容や要因）

※ I であげた身体的、精神的、生活上の障害や状態・困難と対応するものについて

- ・ モニタリングで区分申請ができたこと
- ・ 利用者は自分に合ったヘルパーを求めて、ヘルパーと接してきたが、トラブルにつながるだけで不安定な派遣であった。ヘルパー自身が利用者を受け入れることによって、利用者からのヘルパーに対する不満はなくなった。
- ・ ヘルパー自身、家事に対するやらされ感から利用者がヘルパーを真に必要としていることを感じ始めているので、利用者の心からの要望をストレートに素直に受け入れる状況が生まれた。
- ・ ヘルパー達は、利用者の精神的な安定剤になっている。
- ・ 他事業所のサービス利用時は、複数のヘルパーが入れ替り訪問し落ち着かない状態が続いていた。コープかながわでは、打ち合わせを重ねヘルパーを固定化することで不安を取り除くことができた。他事業所からは、コープかながわに利用者を長期に支えてほしい様子がうかがえる。（他事業所はほっとした様子で、“戻さないでね”とも・・・）
- ・ 利用者の状態を観ながら、共に行なっていったりする中で満足感がえられ自立につながっていった。
- ・
- ・

【事例B】 ホームヘルプにおける予防的視点が有効である事例

精神的ストレスを抱えている利用者に対し、ヘルパーが体調の善し悪しを観ながら援助方法を工夫し、生活上の困難を利用者と共に解消することによって、精神面も含めた生活の維持が可能となった事例

I 利用者の方について

性別	男・ <input checked="" type="checkbox"/> 女	年齢	84歳	要介護度	<input checked="" type="checkbox"/> 要支援 要介護度Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
家族構成	<input checked="" type="checkbox"/> 独居・高齢夫婦・高齢同士（夫婦以外）・高齢でない複数世帯・ その他（ ）				
主な病気	緑内障、高血圧、腰痛				
身体的な障害の状態	生活は全て自立している。				
精神的状態	独居、近くに娘世帯があるが、息子との関係などが複雑で不仲の状態。精神的ストレスの原因となっている。				
生活上の困難	性格的に家事が苦手、夫が家事をしてくれていたが死去。 腰痛の為、掃除機が使えない、買い物が出来ない、布団が干せない。				
現在の派遣区分	身体介護・身体家事・複合型介護・複合型家事・ <input checked="" type="checkbox"/> 家事援助				
望ましい派遣区分	身体介護・身体家事・複合型介護・複合型家事・ <input checked="" type="checkbox"/> 家事援助				
利用サービス	通所介護・短期入所・訪問看護・巡回入浴・訪問リハビリ・福祉用具 住宅改修・配食・その他（ ）				
インフォーマルな支援	地区担当の民生委員が全面的に面倒を見ていたが、手におえなくなってしまう。				
介護保険の利用金額	1,050円	介護保険外の利用金額			
利用者の願い・要望	子供の世話にならずに暮らしていきたい。				
家族の願い・要望	母親の二転三転する希望やわがままにあまり関わりたくない				
その他特徴的なこと	アパートが建て替えになる為、更新手続きが出来ず、立ち退きを大家より迫られている。				

II 訪問介護について

●援助開始の理由・現在までの経過（背景、居宅介護支援計画や要介護度の変更なども含めて）

①アパートで暮らしていた時

冷房のかけすぎから発症した腰痛を理由に民生委員を通じて家事援助の要請をしてきた。全面的な民生委員への依存的態度が見て取れたので、民生委員の肩代わり支援にならないように留意しながら援助を開始した。

しかし、住んでいたアパートを退出しなければならなくなり、建設完成したケアハウスに入ることになった。ケアハウス入所の検討が始まり、次第に家族間の問題が表面化し、民生委員も自身の家族の問題で足が遠退き始めるようになってから頻回の臨時支援要請が入るようになった。「食べるものが何もない」「入浴が1人では出来ない」「書類を書いて」等で、この手続きや保証人のことで、家族間の意見がかみ合わず、本人も精神的に不安定となる。この時はその都度対応して身体介護、複合介護などとなった。

②ケアハウスに入所してからの援助の回数と内容

週 2回 1時間 家事援助の内容：

ケアハウス職員から「入浴時に一緒に入っている入所者に“背中を流して”等と人をこき使うので迷惑」という苦情があるので、入浴介助と居室の掃除を依頼したいと要請が入った。話し合いの結果、以前は寄り付かなかった娘が「3週間ぐらい毎に来所して掃除をしている」という現状を尊重して居室掃除は不要としたが、入浴に関しては新しい機器に不慣れな為か？と推察しシャワーなどの使い方をマスターしてもらう事で解決する方向を選んだ。

●援助目標（訪問介護計画の目標）

①アパートで暮らしている間の援助の目標

・腰痛再発防止（買い物・掃除・簡単な調理・布団干しなど）

②ケアハウスに入所してからの援助の目標

・新しい環境になじんで快適に暮らす。
・「シャワーを使える」こと

●具体的な援助内容を詳しく（生活状況、利用者や家族の要望なども踏まえたホームヘルパーとしての考え方や援助の組み立て、働きかけがわかるように）

① アパートで暮らしている間の援助の回数と内容

週 2回 2時間 家事援助の内容：

掃除機かけ、使用済み食器を洗う、布団干し、ごみ整理、買い物、話し相手

②ケアハウスに入所してからの援助の回数と内容

週 2回 1時間 家事援助の内容

前述したようになんとか入所は出来たものの、ケアハウスでのシャワーの使い方が理解できず、他の住人に頼むので、入浴介助の依頼がケアハウス施設長よりあり、介護ステーションとしては「シャワーを使える」ことを目標にしてケア開始、5回のケア（身体介護Ⅰ）で使いこなせるようになった。ケアハウスでの生活が継続できるようになった。

シャワーは機能を理解することもさる事ながら、他人にかからない使い方なども覚えることができた。

●援助実施上の留意点

・自己主張が強いので「自分の生活が、自分でできるように」と願いながら、出来ることは自分でやろうとするように後押しのケアに心がけた。

●予防的視点の必要性と具体的な内容（利用者の短期的・長期的な変化を予測していることがわかるように）

- ・体力的に無理があるようなところは利用者と話し合いの上で、援助する。本人の希望で無理をさせると身体状況の悪化も予想されることから、ヘルパーが利用者と話し合いながら援助内容を確認していく。
- ・利用者は依存的なため、ヘルパーが関わることによってできるだけ自分でやる意欲を持っていただく。
- ・家族との関係が良くなることによって、精神的に安定することが予想される。
- ・金銭的にも考えた暮らしができる方なので、体調の良し悪しを観ながら、援助の方法を工夫する。
- ・大家さんから建て替えにより退去をいわれ、住むところを確保できるように援助することが重要になる。

Ⅲ予防の効果（または悪化の内容や要因）

※Ⅰであげた身体的、精神的、生活上の障害や状態・困難と対応するものについて

- ・在宅での生活を支え、身体状況の悪化を防ぐことが出来た。
- ・ケアハウスへの入所が実現し、更にその施設内での生活上の困難をヘルパーと共に解消することによって、生活の維持が可能となった。

【事例C】 ホームヘルプにおける予防的視点が有効である事例

めまいや精神的不安定がかなりあったが、ヘルパーが訪問して関わり、利用者とのコミュニケーションを図る事によって要介護度が改善された事例

I 利用者の方について

性別	男・ <input checked="" type="checkbox"/> 女	年齢	91 歳	要介護度	要支援 <input checked="" type="checkbox"/> 要介護度 I・II・III・IV・V
家族構成	<input checked="" type="checkbox"/> 独居・高齢夫婦・高齢同士（夫婦以外）・高齢でない複数世帯・ その他（ <input type="checkbox"/> ）				
主な病気	多発性脳梗塞、白内障（左目失明）、難聴				
身体的な障害の状態	多発性脳梗塞の後遺症により、めまいが突発的に起こる。 床からの立ち上がりの時足腰の痛みあり。 1人での外出は歩行が不安定なので困難である。				
精神的状態	めまいが起きるのではないかと常に不安感を持っている。				
生活上の困難	独居で一戸建てに居住しているため、ふとんや大きな洗濯物を2階のベランダに干すことが出来ない。 足腰に痛みがあるので、掃除・買い物・外出が困難である				
現在の派遣区分	<input checked="" type="checkbox"/> 身体介護・身体家事・複合型介護・複合型家事・ <input checked="" type="checkbox"/> 家事援助				
望ましい派遣区分	身体介護・身体家事・複合型介護・複合型家事・ <input checked="" type="checkbox"/> 家事援助 (たまに買い物同行などするが、実績で請求する。ケアマネに報告)				
利用サービス	<input checked="" type="checkbox"/> 通所介護・短期入所・ <input checked="" type="checkbox"/> 訪問看護・巡回入浴・訪問リハビリ・福祉用具 <input checked="" type="checkbox"/> 住宅改修・配食・その他（ <input type="checkbox"/> ）				
インフォーマルな支援	近隣の方との付き合いは大変良い。電話訪問による安否確認有り。 老人会などへ車で連れていってくれる。				
介護保険の利用金額	10,379円		介護保険外の利用金額		
利用者の願い・要望	ご主人と一緒にすごしてきたこの住み慣れた家で出来る限り暮らしたい。				
家族の願い・要望	ディサービスやヘルパーを利用しながら、自分で出来る事は出来るだけ行ない、自立したメリハリの有る生活をして欲しい。				
その他特徴的なこと	隣の市に住んでいる娘さんが、時々訪問してくれる。アメリカ在住の息子さんが、毎年家族と帰ってくる。				

II 訪問介護について

●援助開始の理由・現在までの経過（背景、居宅介護支援計画や要介護度の変更なども含めて）

- ・市のヘルパーさんが、週2回訪問していたが、利用者の希望にそぐわなかった事もあり、介護保険スタート時、事務所が同じ地域にある事で、プランと訪問介護の依頼を娘さん（隣の市在住）より受ける。
- ・2000年4月～要介護2
（週3回2時間家事援助、月1回訪問看護 月2回2時間身体介護（通院））
- ・2000年7月～要介護1
（週2回2時間家事援助、月4回2時間身体介護（買い物同行） 月1回訪問看護、週1回ディサービス）
- ・2001年8月～要介護1
（週2回2時間家事援助、月2回1時間身体介護（買い物同行） 月1回訪問看護、週2回ディサービス）

●援助目標（訪問介護計画の目標）

- ①高齢だがかなり前向きな方なので、ご自分で出来る事はご自分で出来るよう見守る。
- ②めまいや精神的不安感があるので、十分な関わりの中で改善を図る。

●具体的な援助内容を詳しく（生活状況、利用者や家族の要望なども踏まえたホームヘルパーとしての考え方や援助の組み立て、働きかけがわかるように）

- ・掃除、布団干し：足腰が少しずつ弱くなってきて力が入らない為、一番希望している援助です。
居室、台所、廊下、洗面所に掃除機をかける床は水拭きをする。
- ・天気の良い時は布団を干します。（その間利用者は庭に枕や座布団など軽いものを干したり、台所の片付けなどしている）
- ・買い物
// 同行：食事の献立を考えて、買い物リストを書いてあります。リストを見ながら利用者と確認し、近くのスーパーへいきます。
月2回程 体調の良い時は一緒に買い物にいきます。ご自分の目と手で見ながら買い物をする事を大変楽しみにしています。
シルバーカーを押しながら行きます。足元に注意し利用者のペースに合せゆっくり歩きます。（ケアプラン・訪問介護計画に記入されている）
- ・洗濯：ご自分で行ないませんが、シーツやカバーなど大きな物を干す時はお手伝いします。

●援助実施上の留意点

- ・ご本人の意思を尊重し、援助をします。
- ・特に洗濯、食事作りに関しては出来るだけ自分でやりたいという強い意志をお持ちです。
- ・何をして欲しいかはっきりおっしゃいます。意向に沿って行ないます。
- ・とてもしっかりされていますが、体調が悪い時などは精神的にとっても不安になります。ゆっくり話を聞いて気持ちが落ち着ける様心がけます。
- ・本人の調子が良い場合は、買い物同行等を行なう。しかし、事前にケアマネのプランに組み込んでヘルパーにも認識しておいてもらっている。サービス提供責任者に報告

する。

●予防的視点の必要性と具体的な内容（利用者の短期的・長期的な変化を予測していることがわかるように）

- ・ 援助開始当初は体調の変化が大きく精神的にも不安定な時があり、訪問時横になっていたり、ディサービスもお休みしたりと一人暮らしに大変不安をお持ちでした。
- ・ 利用者や家族の希望に添ったサービスをコンスタントに提供（通院介助・買い物同行・ディサービス）する事で、清潔で、さっぱりとした住環境の中で安心してメリハリのある生活が出来る様支援する。

Ⅲ 予防の効果（または悪化の内容や要因）

※ I であげた身体的、精神的、生活上の障害や状態・困難と対応するものについて

- ・ 利用者とヘルパーがお互いに時間を重ねるごとに関係が良くなり、利用者は自分で出来る事は積極的に行ない、自分の体調に合わせて、ヘルパーに援助してもらうところをお願いします。
- ・ 毎日の生活を自分なりにきちっと組立てておくようになってきました。
- ・ 週1回のディサービスを当初はお昼が食べれて、お風呂に入れるからという思いが気の合う仲間が出来通うのが楽しみになり、行事にも積極的に参加するようになりました。→週2回通う様になる。（本人の希望により）
- ・ このところめまいも起きず、ディサービスも休むことなく、精神状態がとても安定しています。
- ・ 昨年の夏はアメリカにいる息子さんのところへ1ヶ月以上行ってきました。アメリカで補聴器を作り、耳の調子がとても良くなりますお元気になりました。

【事例D】 ホームヘルパーの行う家事援助が有効である事例

昨年6月に調査し、家事援助サービスを週5回提供していた方で、現在は家事援助週4回、デイサービス週1回の利用で要介護度2を維持できている事例。

I 利用者の方について

性別	男・ <input checked="" type="checkbox"/> 女	年齢	64 歳	要介護度	要支援・I・ <input checked="" type="checkbox"/> II・III・IV・V
家族構成	独居・高齢夫婦・高齢同士（夫婦以外）・ <input checked="" type="checkbox"/> 高齢でない複数世帯・他（ <input type="checkbox"/> ）				
主な病 気	脳梗塞（昨年6月）・下肢静脈炎（1月1回通院、薬内服）・高血圧・糖尿病				
障害の状態 （心も含む）	左上下肢軽度麻痺（生活に支障はない）・軽い失語・視野狭窄（左半分、自覚がない）・もの忘れ（退院後悪化。少し改善しているが、やかんに湯をかけたことを忘れる、薬の飲み忘れ等がある）				
派遣区 分	身体介護・身体家事・複合型介護・複合型家事・ <input checked="" type="checkbox"/> 家事援助				
利用サービス	現在はデイサービス週1回利用				
スケジュール	訪問介護（週5日間→4日間になった）（13～15時）				
その他特徴的 なこと	利用者の夫（65歳）も妻の介護中に脳出血にて倒れ、後遺症として右上下肢麻痺があり杖歩行。長女と同居しているが、仕事があり多忙のため、十分に話を聴いてもらえず、夫の入院や後遺症により塞ぎこんでいた。				

II 訪問介護について

●援助開始の理由（背景）

・脳梗塞で退院後、デイケアへ通うなどして、夫と長女で介護していた。夫が脳出血による入院後は、市販のお弁当など高カロリーのものを利用し、糖尿病の診断を受けることとなった。デイケアへは行きたくないという本人の希望で、長女の仕事の間ホームヘルプを利用することになった。

●援助目標（訪問介護計画の目標）

- ・信頼関係の形成する。
- ・自らを受容し、精神的な安定を図る。
- ・視野狭窄による生活上の問題などの自覚を促し、安全に生活できるようにする。
- ・栄養のバランス、薄味、低カロリーな食事が摂れるようにする。
- ・薬の服用を確実にできるようにする。
- ・介護負担の軽減を図る。

●具体的な援助内容（考え方や援助の組み立て、働きかけがわかるように）

買い物：病気に留意した調理を行うための食材を購入する。

調理：栄養のバランス、薄味、定カロリーに配慮した食事を作る。味付けは確認してもらう。

食事介助：食事を左側に置かないようにセットし、食べ残しがないように声かけをし、見守る。

服薬：食後、薬の飲み忘れがないように声かけを行う。

掃除：利用者とは定位置を決めながら、室内の環境を整備し、転倒を予防する。ドアの開け閉めなどから、視野狭窄の状態を確認していく。

相談援助：入院や病気の後遺症により不安が強く、テレビも見れないほど塞ぎ込んでいたので、利用者の病気や障害の受容を促し、精神の安定を図るために、利用者の心身の状態を観ながら、話を十分に聴いたり、気分転換を図れるような話をする。

●援助実施上の留意点

◎夫と自分の病気や視野狭窄の理解や受けとめができていないので、生活上の障害を一つひとつ受け入れられるように、共に対応を考え、安全に行動できるようにする。

- ・犬を飼っているので、犬好きなホームヘルパーが2人入り、犬の話をするなどして信頼形成を図った上で、ホームヘルパーを固定する。(犬は弱ってきたが、現在も同様の対応をしている)
- ・家事を行う際には、ダイニングの椅子に座ってもらい、利用者のペースでコミュニケーションを図り、関心を拡げられるように地域のことなどを話題にする。

●家事援助が必要である理由

- ・糖尿病や高血圧があるため、現状を維持、改善するために、適切な食事を確保することが必要である。
- ・病気や障害への不安があり、受けとめもできていないため、家事援助を行いながら、精神の安定を図り、日常生活上の障害を確認していくことが必要である。
- ・その人らしい生活を整えていくには、家事援助を行う中で、生活の仕方を共に考えていくことが必要である。
- ・娘の介護負担の軽減を図るために、利用者の気分転換となっていた犬の毛などの掃除も共に行えることが必要である。

Ⅲ援助の効果

●身体面

- ・ヘルパー導入前は日中夫と二人だけなので、市販の惣菜や出前の食事で済ませていたため、塩分やカロリーが高く野菜がほとんど摂れていなかった。ホームヘルパーが工夫して調理するようになり、高血圧や糖尿病も落ち着いてきた。
- ・声かけ等の働きかけにより、内服薬の飲み忘れがなくなり、病状の悪化を防ぐことができていた。
- ・視野狭窄を受けとめて、安定した日常生活が送れるようになった。

●精神面

- ・最初は失語のため言葉が出ないことがあり、他人と話したがらなかった。明るく話しやすい雰囲気のある2人のヘルパーが入り、犬や食べ物の話題を介して本人のペースに合わせてコミュニケーションを図っていったことで、自から病気のことなどを話すようになった。

●生活面

- ・ヘルパーが決まった時間に訪問する事により、朝から身支度を整え、生活にリズムができてきた。
- ・心身の状態が落ち着き、夫と2人で庭に出ることができるようになった。
- ・食生活が豊かになり、会話が增え、生活全体への興味関心が拡がってきた。

●家族面

- ・娘は昼間も不安で転職も考えていたが、安心して仕事を継続し、専念できるようになった。
- ・利用者は娘が自分の話を聴いてくれないと愚痴をもらっていたが、娘のたいへんな状況も理解できるようになり、娘のことを悪く言わなくなった。
- ・夫は安心して入院治療を続け、退院し、在宅生活を利用者と共に過ごすことができていた。
- ・夫はあまり話すタイプではなかったが、会話に加わるようになり、夫婦関係も安定してきた。

●親族・近隣・地域との関係面

- ・近隣や親戚も時折様子を見にきていたが、利用者が明るくなったことで、話ができるようになり、交流も継続できている。

●他のサービスへの影響

- ・昨年はデイサービスは合わないということで利用しなかったが、現在は利用して効果が出ている。